

通信・IT ネットワークの分野では、日々新しい技術が開発され、より効率的で、より安価なサービスが次々と生み出されています。知らないことは、イコール企業利益の損失です。そこで私たち大和電設工業は、情報通信やITソリューションの『知って得する最新情報』を、お世話になっている皆様に定期的にお伝えしていきます。隔月発刊のDDK通信、ぜひお楽しみください。

## 高齢者見守りサービス

昨今、「高齢の親が自宅で一人暮らしをしている」という状況は特に珍しいものではなくなりました。一人暮らしの高齢者は年々増加し続けていますが、社会とのつながりが希薄になり孤立しやすいという特徴があります。実は高齢者の一人暮らしには様々な危険性があり、孤立しやすい高齢者にとっては自宅で

の事故や容態変化にすぐに気づいて貰えるか分からないという問題があります。

今回は一人暮らしの高齢者が自宅で事故に遭う危険性と、事故に遭った時に備え、サポートするための見守りサービスについて見ていきたいと思います。

### 高齢者の自宅での危険性!

高齢化社会が進む日本では高齢者の一人暮らしは年々増加しています。65歳以上の一人暮らしは男女ともに増加傾向にあり、昭和55(1980)年には男性約19万人、女性約69万人、65歳以上人口に占める割合は男性4.3%、女性11.2%でしたが、平成27(2015)年には男性約192万人、女性約400万人、65歳以上人口に占める割合は男性13.3%、女性21.1%まで増えました。

一人暮らしが増えている要因の一つとして、住み慣れた自宅を離れたくないという高齢者の希望があります。しかし、国民生活センターに提供された高齢者の事故情報を見ると、事故発

生場所として住宅での事故の割合が事故全体の実に77%を占めています。高齢者にとっては、住み慣れた自宅だから安心、とは言えない数字です。

では住宅内のどこで事故に遭っているかというと、居室45%、階段19%、台所・食堂17%がTOP3でした。また、原因として最も多かったのは転落・転倒です。ベッドからの転落・転倒、じゅうたんなどに足をとられて転倒、段差につまづいて転落・転倒…。ただの転倒であったとしても高齢者にとっては骨折の原因になることも多く、軽く考えてはいけません。

### 高齢者見守りサービス

何か問題が起こってしまった時に一番大事なのは早期発見です。家族に代わって親の安否をたしかめたり、異常があれば連絡してくれるのが「高齢者見守りサービス」です。高齢者見守りサービスには、大きく分けると下記の4タイプがあります。

サービスタイプ	サービス内容	主なサービス提供会社
センサー型	家電やガスの使用状況や、室内に設置した感知センサーの感知状況、ウェアラブルデバイスの情報などから、日常生活を見守るサービス	象印マホービン株式会社「i-POT」 NTTテレコム株式会社「あんしんテレちゃん」 SECOM「まごチャンネル with SECOM」
通報型	突然の体調不良などの緊急時に、簡単に通報ができるサービス	総合警備保障株式会社「HOME ALSOKみまもりサポート」 東急セキュリティ株式会社 「東急セキュリティレスQ」
コミュニケーション型	電話や直接訪問をして、近況や生活の様子を確認してくれるサービス	日本郵便株式会社「郵便局のみまもりサービス」 株式会社こころみ「つながりプラス」
その他、複合型	カメラや生活支援など、さまざまな機器や見守りを複合的に取り入れたサービス	東亜警備保障株式会社「みまもり隊」 アットシグナル株式会社 「絆-ONE」

様々なサービスが展開されており、サービス内容や月額利用料金などを比較できるサイトもあります。

その他、センサー型では、ウェアラブルデバイスを用いる方法もあります。脈拍や身体の動き等からさまざまな状態を推測することが可能となります。

また自治体でも高齢者の見守りに取り組んでいる市町村が

あり、奈良県高取町では「高齢者見守りあんしんシステム」というシステムを提供しています。日常必ず利用するトイレの扉にセンサーを設置し、24時間反応がなかった場合には自動的に受信センターに通報されガードマンが自宅へ駆けつける、というものです。ご自宅がある市町村でも一度情報を集めてみてはいかがでしょうか。